

# 令和5年度第3回富谷市介護保険運営委員会 会議録

## ～ 委員会概要 ～

日 時 令和5年11月16日(木) 午後2時00分～午後3時40分

場 所 富谷市役所3階 305会議室

出席委員(13名) 那須 正行、大和 道功、笠原 純子、安齋 由貴子、志水 田鶴子、  
大澤 政人、斎藤 翔、平岡 政子、永野 憲子、佐藤 恵子、  
増田 恵美子、内ヶ崎 清子、菅原 義則

欠席委員(5名) 中谷 良子、渡邊 裕志、大神 健一、関 克彦、佐藤 一夫

会議に参与したる者 市長 若生 裕俊

事務局出席者(8名)

○保健福祉部 部長 狩野 悦子、長寿福祉課長 横田 善和、同課長補佐 奥山 晴基、  
同主任主査 岡 宣之、  
保健福祉総合支援センター所長 大谷 江里子、同副所長 伊東 大助、  
同主任技術主査 高橋 侑美、社会福祉士 後藤 雄一

午後2時00分

< 開会 > 司会進行 長寿福祉課長

< あいさつ > 富谷市介護保険運営委員会 委員長 那須 正行  
富谷市長 若生 裕俊

(横田課長) それでは早速議事の方に入りたいと思います。議長につきましては委員会規則に基づきまして委員長が議長となつてございますので、進行の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(那須委員長) まず、議事を進行するにあたり、委員の皆様のご意見をいただきますとともに、議事進行につきましてご協力をお願いいたします。それでは早速ですが、審議に入ります。

(1) 令和5年度上半期実績等について、はじめに資料1、上半期実績から説明をお願いします。

(岡主任主査) <協議事項(1) 資料1 令和5年度上半期 介護保険給付実績について>

(那須委員長) ありがとうございます。只今、事務局から説明いただきましたことについて、委員の皆様から、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(大澤委員) 成田の里の大澤です、よろしくお願ひします。3ページの介護度別認定者数の推移について質問なんですけれども、要支援から要介護5までの構成割合はあれなんで

すが、初めて認定をして非該当となった割合とか人数ってどれぐらいいるのかなと思  
いまして、確認したくて質問させていただきます。

あともう1点ですね、4ページの介護給付費等についてというところの人数なんです  
けれども、延べ人数っていうのは4月から9月までサービスを使った人数のトータル  
ということで間違いなかったでしょうか、2点確認させていただければと思います。

(岡主任主査) すみません、今頂戴した質問についてお答えします。まず先に4ページのと  
ころです、延べ人数ですけれどもおっしゃる通り、4月から9月までの利用された方の  
実際の累計の延べ人数ということで表記させていただいております。

(大谷所長) 非該当の方の人数ですが、今ちょっと持ち合わせている資料がございませんの  
で正確な数字についてはお答えできません、令和5年度の審査会においてということ  
でよろしかったですか、後でお調べしてお答えをさせていただきたいと思ますよろ  
しくお願いします。

(大澤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) その他ございますか。続きまして資料2ですね、上半期事業実績、下半期事  
業取り組みについて、事務局から説明をお願いいたします。

(伊東副所長) <協議事項(1)資料2 令和5年度上半期事業実績及び下半期事業取組につい  
て>

(那須委員長) ご説明ありがとうございます。只今ご説明ありましたが、委員の皆様、ご  
意見等ございましたらお願いします。

(大和委員) 大和と申します。老人クラブのですね、解散が続いているという記載があるん  
ですけれども、どういうふうに…、具体的にどういうことなんでしょう、人数その他  
について、団体とか、何個ぐらい減って何人くらい減ってますか。

(大谷所長) はい、それではお答えいたします。老人クラブに関しましては毎年1ヶ所ずつ  
減っておりまして、今おそらく10ヶ所だったと思います。で、1クラブずつ減ること  
によって、会員数の方が全体の合計数が減っているという現状となっております。

要因としましてはおそらく60才以上の方から、入っていただけるものではあるんで  
すけれども、皆さん65歳70歳ぐらいまでお仕事をする方っていうのが、もう昨今非  
常に多いところもございまして、引退した後ですね、例えばシルバー人材セン  
ターの方にお仕事をされるとか、そういった方もいらっしゃるのかなというところで、  
なかなか老人クラブの方はですね伸び悩みといいますか、減少の方が続いているとこ  
ろでございます。

(大和委員) わかりました。

(那須委員長) 課題のご説明に私なりに把握している点を申し上げます。なぜ、解決できな

いか、団体を廃止するかというと、大分高齢化率高くなっていきますという足腰が弱くなっていく人も増えて、それに車を運転する人もいなくなってしまうということで、行事をやるにしても、その会場に集まる交通手段がなくなってしまう、ということがありました。今、大きな理由の一つになっています。

(大和委員) 免許の関係が大きいような感じなんですけど、そこはどうなんでしょうか免許関係、老人で返納するとか、返納してるのは大体増えてますでしょうかね、減ってますか、平行線ですか。

(横田課長) はい。こちらの運転免許返納の関係について、毎年富谷市でというよりは宮城県の免許センターの傾向を見ますと毎年増えております。年齢構成も、かなり幅広くはあるんですけども、具体的に今数字が幾らかっていうところに関しては、申し訳ございませんが資料を持ち合わせておりませんが、年に一度12月期に必ず公表されておりますものを見ますと増加傾向にある、減るというところはちょっと見られないところでございました。

(大和委員) (返納者は)都市部で増えてますけども、農村部では免許返納者が少ないということなんです。農村部に関係するバス等はですね、富谷はまだ良い方なんですけども、鶯沢なんかの地域を見てみると(運行がなく)全く困ってるような状態の御老人も多いと見受けます、富谷はまだ市街地に近いですから。

(那須委員長) 他にご質問等ございますか。はい。どうぞ。

(志水委員) ご説明ありがとうございました。3ページの高齢者を支える仕組みの中で、人材を、高齢者を支える人たちを、一生懸命養成しているというようなことはサポーター養成基礎研修の中の数字で分かるかと思うのですが、この養成研修を受けた人達ってというのは、この事業をどれぐらい、何年ぐらい続けておられるかちょっとわかりませんが、似たような研修なんかがあって、いろいろな形でサポーターを様々な形で、養成しているんじゃないかと思うんですよ、(事業の)名前が違ってても。

その人たちの活躍の場はどんなふうに確保されているのかなっていうのをちょっと教えていただきたいのですけれど。

(大谷所長) はいそれではお答えいたします。サポーター養成基礎研修など、そういった研修を受けられた方に関しましては、基本的には、例えば1ページ目のサロン型通所サービスであったり、あとは「ゆとりすとクラブ・サロン」ですね、そういったところの地域で行っている、そういった支え手が運営の方になっていただくようなものへ繋ぐというところを主軸にしております。

運動サポーターに関しては、1ページ目の筋トレ型通所サービスというところで、活動をしていただいている、そういったところでございます。

(志水委員) かなり参加される方は多いんですか、要は学んだ知識を実際に生かされる方っていうのはかなり多い？

(大谷所長) はい。そうですね今年度に関しましてはサポーター養成研修も8名というところになりますけれども、その中で大体半分ぐらいの方が次の活動に繋がっていているというところがございます。またその中の方達が更に別な運動サポーター研修を申し込んだりとか、その場で申し込みをしていただくというところになります。あと今年度下半期の予定にはなるんですけれどもサポーターフォローアップ研修というのもこれから予定しております、その基礎研修を受けられた方が実際に活動に、何ていうんですかね、行く場所を試しに体験してみるとかそういったものを今企画中がございます、受けたら受けっぱなしということではなくって次に何とか繋がるように、そういうところで実施をしているところがございます。

(那須委員長) よろしいでしょうか。はい。どうぞ。

(斎藤委員) 8ページの認知症地域支援委員の数の部分だったんですけれども、令和元年度が7名で、上半期実績が6名というような形で減少しているようになっているんですけれども、その部分はどのような形で、なんで減少しているのかということと、養成講座を経て配置というような形になっていたんですけれども、上半期、下半期等でこちらの部分の増員等が見込まれるのかどうかということをお伺いできればと思います、よろしくをお願いします。

(大谷所長) はいそれではお答えいたします。この認知症地域支援推進員に関しましては、包括支援センターに1名以上置いてくださいということで、研修を受けていただいております、今年度講座を受けていただく予定の方が6名ということになります。

包括全体だと市の方に関しましては、新しい職員が入った場合には必ず受けていただくなど、例えば今年、認証推進員としての役割を与えられていなくても、資格といいますかそういった知識やそういったものを持ち合わせている職員は包括の中でもうちの支援センターの方でもございます。登録というか支援の届け出の関係上、今年は6名ということにしております。

ここに関しては来年度からは人数というよりも設置数で定めていく予定でしたので、次の説明にも関係してきますけれども推進員の数を評価指標にするのはあまりふさわしくないというところで、今後、評価に関しては(人数の指標を)抜いていくこととしておりました、以上でございます。

(斎藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) 他にご質問ございましたらどうぞ。では続きましてですね、富谷市高齢者保

健福祉計画、第9期介護保険事業計画の素案につきまして、事務局から説明をお願いします。

(奥山補佐、大谷所長) <協議事項(2)資料3 富谷市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画素案について>

(那須委員長) 只今の説明について、ご意見等ございましたらお願いいたします。

(安齋委員) はい、第8期の時に比べて、今いろいろされていることを盛り込んで、第9期として必要な項目が含まれて分かりやすくなっているなというふうに思いました。

1つ質問なのですが第8期の計画を見ると、細かい内容じゃなくて大変恐縮なのですが、所々がちょっとカラーになったりするんですけども、この計画っていうのはやはり住民の方が見やすいっていうものが大切だと思うんですけども、パッと見て分かりやすいっていうところが重要かなって思うんですが、高齢者保健福祉計画、介護保健事業計画っていう、内容的にも何となく取っ付きにくい計画だっていうのを日頃から思っておりまして、ちょっと今回の資料もメールでいただいた方はカラーでも見やすかったんですけども、いただいた資料は白黒ということで、お金が掛かるっていう、こういうところで節約するっていうところも大切だと思うんですが、この完成版に関しては、カラーのところはカラーにさせていただくなり、ちょっと関連するところのイラストというか図、第8期もいろんな図が入っているんですけど、そういう図を入れるとか、特にこの住民の方々と一緒に取り組むみたいなところは、見やすく分かりやすいっていうところを目指して、予算もあると思うんですけど、そういうところにはお金を使っただけならばというふうに思ったりしましたので、是非ご検討いただければと思いますし、もし難しければホームページにもアップされるんだと思うのですが、そちらの方はカラーにするとかですね、何か工夫していただければと思います。

(横田課長) ご意見ありがとうございます。委員お話しの通り、今後の流れというところで本日は大変恐縮でございましたが白黒版での1色表示とさせていただきます。次のステップというところで、12月下旬にホームページにパブリックコメントの掲載を予定しておりますが、本日の会議資料を受けまして、次回、パブリックコメント用の資料を委員の皆様の方にも事前にお配りさせていただきたいと思っております。

その資料には、今ご意見のありました、カラーの部分や、表の中身の組み合わせがまだまだ不十分なところもございますので、見やすさの部分、分かりやすさの部分、基本的に見える化の部分の踏まえてカラー表示すべきところはするということで準備して参りますので、本日の会議につきましてはそういう経過があったということでご理解いただければと思います。

(那須委員長) その他、何かございますか。

(増田委員) はい、これから富谷も高齢化率が上がるっていうことも見込んで、それでも安心して皆さんがこの地域で過ごせるようにというような内容で、安心とか、そのような内容だと思うのですが、この介護計画、こういう計画は全国的に多分こういうものなのかなと他と比べたことがないのでわからないんですけども、私が今から言うことが、もしかしたらとんちんかかもしれないんですけども、一つ、何かこう発想の転換があってもいいのかなと思うことがありました。

というのは、私の周りで誰よりも元気なのは、もはや80っていう方なんです、例えば(町内)会館のところに花壇づくりをしようって言って真夏の暑い中に、最後まで誰よりもバテないのが80代の方だったりして、私たちの年代は、もう早く日陰に入れてくださいみたいな、もうちょっと水分補給してみんな、もう中に入りましょうみたいな、私はそれを見てハッとして、どうしてこの方達はこんなに元気なんだろうと思ったらもう本当に体力づくり、食事、すごく気を使っているっていうことがわかって、私もその方たちと同じジムに入りました。ジムに入ったんですけど、一緒の時間になりたくないんです、というのはとても同じ時間、同じことできないんですね、もう半分以下の時間しかできなくて、一緒になって、「なんでもう終わりか」とか言われて、「ちょっとこの後用事があるんで」とか言いながら帰ってくるんです。

ということは、私達ぐらいの年代がすごく大事、私50代なんですけれども、この50代の時に如何に、本当にピンピンコロリといくにはどうしたらいいかっていうことを真剣に考えるっていうことがこの介護予防とかに何より大事かなって。

そのためには、例えばなんですけど広報とかで、年に、1回とかでもいいから「なぜあなたはそんなに元気なの」みたいな、元気な方の食生活だったり、生活習慣だったり、そういうのを紹介するとか、何か、私たちぐらいの年代からハッとするような、年齢を重ねることに夢や希望を持てるような、こうなっても安心ですよじゃなくて、「ピンピンコロリといきましょうよ」みたいなそういう発想のものが提示などがあってもいいのかなと、ちょっと夢を持たせて欲しいなということで、意見をさせていただきました、以上です。

(那須委員長) 貴重なご意見ありがとうございます。

(大谷所長) 大変ありがとうございます。そうですね私も事業に行かせていただいたりすると皆さん、年齢を聞いてすごいびっくりすることも多いです、あとは今、ゆとりすとだったり、街かどカフェという地域の方で、担い手の方たちが地域の方が中心になって取り組んでいただいているものについても、80代で代表されていたりとか、70、80代であってもすごくお元気に、富谷の将来のことを案じながら代表していただい

いたりということもございます。本当に 100 年時代っていうのを見据えて、私としては介護保険制度を使っている方が今大体 15% ぐらいいるので 85% の方は元気なのかなと思っているところでございますので、ぜひその 85% の方にもずっと地域の中で主体的に取り組んでいただくというような地域づくりを目指していきたいと考えております。様々な講座でもそういったお話をさせていただいております。この介護保険の事業計画の中にどこまで含んでいくかというところになってくるかと思えますけれども、素案の 2 ページに事業計画の位置付けというものがございます。そちらの事業計画に関しては、様々な関連計画、横づけと申しますか、そういったものと関連づけながら実施をしております。

例えば富谷市の健康推進計画や食育推進計画であったり、障害であったり、子供子育て支援計画というものとも関連性を持たせながら実施をしているところでございます。

40 代、50 代の方の健康課題というところもございますので、そこから発生して、やはり高齢者に突入していくというようなところもございますので、そういったものに関しては他部局とも連携を図りながら、実証していければいいかなと思っているところです。

今回、説明を割愛したんですけれども、素案 11 ページに平均寿命と健康寿命の状況というものを新たに掲載しております。あと 5 ページに後期高齢者医療費の推移と介護認定者の有病状況というものを新たに掲載しております。うちの市は平均年齢としては若いですが、実は健康寿命と平均寿命の差に関しては、県内でもあまり良い数値ではないです、要は不健康の期間が長いというデータが出ております。そういったこともございますので、高齢者になってから健康に気を付けるということではなく、本当に若いうちから健康への取り組みというのが非常に重要になってくるので、保健福祉部内でもそういったもの（情報）を共有しながら、全体的な取り組みを子供の時から、ゆりかごから墓場までですね、健康課題を共有しながら、事業の展開を図って参りたいと考えております、以上でございます。

(那須委員長) ありがとうございます。他にございますか。

(内ヶ崎委員) 只今の増田委員の方からいただいた意見と同じような意見になると思うんですが、介護保険っていうのは、介護を必要とされるようになった人達の予防だったりという事なんですが、もっと前段階で、介護を必要としないような人生を送るためにどうしたらいいかというようなところに、もうちょっと重要な視点がなければならぬんじゃないかなと私は常々思っております。

要するに介護を必要とするになった、或いは寝たきりになった、そういう人たちを

起こすのは大変なんですよ、歩かせるのも大変なんです、時間も掛かりますし、家族も大変、お金もかかるというようなことで、そうならないための人生、自分の生活を築いていくための、市としての、市民に対するきっかけづくりっていうのもっともっと大切に考えていただけたら、介護保険ももっともっと楽、楽って言ったアレですけども、お互いにお世話にならないで済む期間が多くなるんじゃないかなと思います。

私も「ゆとりすと」の事業の代表してますけども、20年間係わってまして、この間文化の日に功労表彰を「ゆとりすとサロン」として受けました。今日はたまたまその20年に1回ってすごいことだよってということで、定例の「ゆとりすと」の教室、今日は川柳教室だったんですが、それを終わった後にみんなでお祝い会をしようということで、お赤飯を炊いて、みんな手づくりでしたけども、なめこ汁などを作ったりデザートを作ったりと、手づくりのお祝い会をしました。本当に大谷所長さんにも参加していただいたんですが、本当に和気あいあいと、「ゆとりすとって楽しいよね」って言っていただいて、みんな一言一言その思いを口にして、今日は帰っていただきたいんですけども、やっぱり何かそういう楽しんで集う場所ってもちろん「ゆとりすと」も「街かどカフェ」もそうですがそういったもの、その他にも体力づくり、例えばウォーキングだったり、何かちょっとしたきっかけがあれば、地域の人たちもそれをきっかけに取り組むことができるのかなと思います、市でも様々やっているとんですが、それがなかなか私たち市民には届いてこない部分もあるのかなと、そして縦割りでなくて、横の繋がりが大事だと思うんですね、スポーツ関係ですと生涯学習課だったりとか、サークルだと公民館だったりとかいろいろありますよね、介護関係だと福祉部門とか、なんかそういう横の繋がりが大事にして、何かきっかけを作りを投げかけていただきたいなというふうに思います。

(那須委員長) ありがとうございます。

(狩野部長) 貴重なご意見ありがとうございます。介護保険が始まった当初も、やはり市、あの当時は町だったんですが、保健福祉部門の中で考えていたことは、介護が必要な方をなるべく少なくなるように、やっぱり予防が大事なんだというのは、健康づくりの部署では考えて、いろいろ取り組んできたところではございます。

ただ、いまのご意見の中にそこがなかなか市民の中にと、伝わっていないところがあったのかなというところは反省すべきところのかなと思いますし、今の介護に限らずなんですけどやはり横の連携って大事だよってというのは、いろんな部署で言われ始めていて、そのために横の連携会議みたいなのも少しずつ増えてきているところです。そこを重点的にこれからも健康づくりと介護予防というところで、していけるよ

うに取り組んでいけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(那須委員長) はい。

(永野委員) 要望とかそういうのではなくて感想なんですけれども、老人会が段々人数が減ってるってことで、(免許証)返納のこともありますでしょうけれども、「ゆとりすと」であったり、「街かどカフェ」であったり、いろいろな会合がいっぱい出ていて選択肢が今、大分増えているんで、老人つくのはちょっと若干抵抗ある世代もこう出てきているので、何か一つずつ自分たちがそちらの方に飛び込んでいって、介護予防に繋がるっていう形が必要だと思うんですね。

先ほど申し上げた「ゆとりすと」と、「街かどカフェ」とかの他にも、公民館でやっているいろんなサークルがありますよね。あの方達も結構、フタを開けてみると結構高齢者が多くて、何か一つ自分たちに生きがいの持てるようなものが体操であったり、ウォーキングであったり、いろいろ川柳やそちらの方もいろいろな会合がたくさんあると思うんですね、でするので何か一つ、自分が入っていったものがこうあるっていうのが一つでいいんですね、一つ何か自分はこれをやっている、これをやっていて、実は介護予防という意識はないけど、介護予防に実は繋がっているっていうのがこうみんながこう分かり合ってという世の中であれば、自然と介護予防になるんじゃないかなと思うんですね。

その中でも元気なおばあちゃんもいれば、そうじゃない人も行って今いろいろそれぞれ、皆それぞれなので、そこのところは、本当に完璧っていうのは難しいでしょうけれども、なるべくそういうふうにするように、一人一人が心がけて認識していくのが必要かなと思いました。

それから、認知症のことについて、先ほどもちょっとフレーズがとても、理解と心構えというか…、忘れちゃったけど、とてもとてもいい言葉だなと思ったので、安心していたしました。ありがとうございました。

(那須委員長) ありがとうございました。いろんなご意見ありましたので、意見をこれからの政策の上に反映させていっていただきたいというふうに思います。最後は全体を通して何かございますか…。それでは、その他の議題に移ります。

(横田課長) はい。長時間にわたりまして、委員の皆様、大変お疲れ様でございました。素案の冊子につきましては、事前に皆さんの方に送付をいたしまして、ご一読いただいた上で、本日の会議というものが本来の形でありますしたが、当日配布であったことをお詫び申し上げたいと思います、大変申し訳ございませんでした。本日お戻りになられてからも、内容を見てこれはどうだったのか、これはどうなのという気づきが必要だと思いますので、ご面倒でも一通りご一読いただいて、意見の方につきましては

は随時、長寿福祉課なり支援センターの方にお声がけいただければと思います。

その他ということで今後のスケジュールを確認させていただければと思います。一番最初に市長からのご挨拶にもございましたが、今回の素案で皆様からいただいた意見を踏まえました、パブリックコメント用の最終の草案を12月中に取りまとめいたします。そちらのものを使って12月下旬から1月にかけてのパブリックコメントで市民の皆様から意見を聞いた後に、2月8日木曜日の午後2時から、第4回の介護保険運営委員会を開催させていただきたいと存じますので、ご面倒おかけしますが、また改めましてご審議のほどよろしくお願いたします。

もう1件、最初に介護認定審査会の非該当の件数ということで大澤委員からご意見のありました内容につきまして、数字の部分ができましたのでお答えいたします。

4月から11月16日までの介護認定審査会における非該当の件数は13件ですので、大体月1件から2件程度でございます。数字上のお話ですので、その分析というところまでは申し訳ございません、こちらでまだ対応できておりませんので、あくまで数字のみの報告でございました。その他といたしましては以上でございます。

(那須委員長) 以上、予定された議事は全て承認いただきました。それでは事務局に進行をお願いいたします。

(横田課長) はい。ありがとうございます。それではこれを持ちまして令和5年度第3回介護保険運営委員会の一切を終了させていただきたいと思います。大変お疲れ様でございました。

< 閉会 >15:40